

はじめに

世界の中で、アジアに対する注目度が年々大きくなっている。

人口の面では、アジアは中国の存在により、以前から世界の中で大きな存在であった。1950年、世界の総人口約25億人の55%はアジアであった。2010年、世界の総人口約69億人の60%はアジアである。中国は13億6千万人と世界第1位の人口であるが、続いて、インド（2位）、インドネシア（4位）、パキスタン（6位）、バングラデシュ（8位）、日本（10位）、人口の世界ベスト10にアジアから6か国も入る。現在は日本を除いて人口構成が若い国が多いが、今後、中国を始めとして急速に人口の高齢化が進むことが予想され、高齢化対策が社会的課題となっている。

経済面では、1960年代に日本が高度経済成長を遂げ、「経済大国日本」として存在感を増し、アメリカに次ぐGDP（国内総生産）世界第2位の国として、世界経済の一角を占めてきた。1980年代から90年代には、韓国やシンガポール、台湾、タイの経済発展に目覚ましいものがあった。21世紀に入ってからは、急激な経済成長を続ける中国が、2009年、GDPにおいて日本を抜いて世界第2位に躍り出た。インドやインドネシアも、近年、経済成長を続けている。アジア開発銀行によると、2011年現在、世界総生産（GDP）に占めるアジアの割合は、27%に達している。さらに、このまま中国やインドが順調に成長を続けた場合、2050年には50%にも達するという。

政治的な面をみると、アジア諸国の多くは、第2次世界大戦前は、欧米諸国等の植民地であったが、第2次世界大戦後にあいついで独立を果たした。しかし、朝鮮戦争やベトナム戦争などの戦争や、中国の文化大革命、クーデター等の政治的混乱が続いた。しかし、現在では、中国が世界政治の一極となるほか、ASEAN（東南アジア諸国連合）等が存在感を示している。

政治的混乱に終止符が打たれ、政治が安定してくると、国家による経済政策

が功を奏すること等により、経済が発展基調となり、国民生活の向上という内政面の政治的課題が浮上してくる。児童や障害者、高齢者に対する福祉政策、医療費保障や医療サービスの充実等による生命と健康の確保のための政策、老後の所得保障としての年金制度の創設等、社会保障の整備に対する国民のニーズが高まる。政権側は、国民の支持を得ようとして、こうしたニーズにこたえ、社会保障制度の整備を進めていく。経済成長により、国民や企業による税や保険料負担が可能となる。社会保障の整備という点で、西欧諸国と比較をすると、アジア諸国は「後発国」であるが、近年、本書で解説するとおり、特に東アジア諸国において、特徴ある取組が展開されている。

アジア諸国における社会保障制度の整備の歴史をふりかえるとき、夏季オリンピックの開催時期と歩調が合っている点が興味深い。1964年、日本の東京において、アジアで初めてオリンピック夏季大会が開催された。24年後の1988年には、韓国のソウルにおいて、さらに18年後の2006年には、中国の北京においてオリンピック夏季大会が開催された。日本・韓国・中国の3か国の間に、おおむね20年間の間隔があるが、経済成長による社会的・経済的基盤や社会保障制度の整備に関して、3か国にタイムラグがあったことを反映している。

本書では、アジアの社会保障を概観（第1章）した後、中国（第2章）、韓国（第3章）、台湾（第4章）、タイ（第5章）、日本（第6章）の5か国を取り上げ、各国の政治・経済・人口等の現状、社会保障制度の整備の歴史、社会福祉や医療保障、年金保障の現状と今後の課題について、それぞれの国の社会保障に詳しい学者・研究者が解説している。

本書の特徴は、アジア諸国、特に東アジア諸国の社会保障の歴史や現在の状況を詳しく解説していることである。欧米の社会保障を解説した本は数多く存在するが、アジア諸国の社会保障について解説している本は少ない。ところが、近年の経済成長などにより、アジア諸国における社会保障制度の整備の進展にはめざましいものがある。

第1章では、アジア諸国の社会保障制度の整備の特徴について、アジアの人口、経済、政治、歴史的な変化等の視点から解説する。東アジア諸国の社会保

障の類型として論じられている「後発福祉国家論」についても言及する。第2章では、世界1の人口を有する中国において、社会主義国から市場経済を導入して世界第2位の経済大国となる過程における社会保障制度の整備の状況を描く。第3章では、「国民皆保険・皆年金」を構築する一方、医療保険制度の一元化や介護保険制度の創設など、新たな次元に発展している韓国の社会保障を解説する。第4章では、社会保障制度の整備を進めつつ、「外籍看護工」と呼ばれる外国人労働者が介護や育児の分野で一定の役割を果たしている台湾の社会保障制度を解説する。第5章では、社会保険とともに社会扶助の手法も組み合わせて医療保障システムの整備を進めたタイの社会保障制度を解説する。第6章では、アジア諸国の中でいち早く経済成長を遂げるとともに、少子高齢化の進行により「高齢先進国」となった日本の社会保障制度を解説する。

本書において、これら5か国の社会保障制度の概要を理解できるとともに、国際比較の視点から各国の特徴を考察することが可能となる。たとえば、医療保障についてみると、日本や韓国、台湾は社会保険による「国民皆保険」により対応する一方、タイでは、いわゆる「30パーセント医療制度」という税を財源とする社会扶助方式により対応している。また、少子化や人口高齢化の進行は、日本のみならず、韓国や台湾、中国においても同様の状況を迎えることとなり、児童・家族政策や高齢者介護問題への対応が急務の課題となっている。高齢者介護問題に関して、日本で介護保険制度が実施（2000年）され、次いで韓国が実施（2008年）、台湾で検討中、という東アジア3国の介護保険による対応は、世界的に注目に値する。

本書により、読者の方々がアジア5か国の社会保障に関する知識を深め、日本やアジア各国におけるこれからの社会保障の在り方を考えたり、アジア諸国との国際交流を進めたりする上での参考になれば、執筆者一同望外の喜びである。最後に、本書の出版の機会を与えてくれた（株）法律文化社及び編集の労をとっていただいた小西英央氏に心より感謝申し上げる。

2015年2月

編者 増田雅暢